
ほのぼの妖魔ライフ

玄武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ほのぼの妖魔ライフ

【Nコード】

N8897Z

【作者名】

玄武

【あらすじ】

ここは、魔力や妖力の存在する世界。その魔力や妖力をもって生まれてきた者は、普通の学園ではなくその専門の学園に通う。

そしてこの世界には、様々な島国がある。その中で一番大きい国が総合国。主に力をもたない普通の人々が暮らし、普通の学園がある。その他の国で有名なのが、火の国、水の国、植物の国、虫の国、万能の国、機械の国、死の国、地の国・通称じく地国、歌の国があり、これらの国に住む者は、何らかのエリートである。普通の人も体にもっていているが、それよりも多い、体の四分の一から半分以上を

もっている者は、エリートでなくても、これらの国に住むことが許可される。

国王、もしくは社長達の上に立つ、力の強い物を元帥、元帥よりも賢い者を大元帥と呼び、このような者は本名を隠し、仮の名を名乗り、本当に信頼している者などのみに、本名を明かすようになっている。

それでは、ほのぼの妖魔ライフ、スタートです。

ここは、水の国王宮。その王室でふかふかのやわらかいベッドで気持ちよさそうに眠る、それはそれはイケメンの、澄んだ碧い瞳あおの男の子 中等部くらいの がおりました。

「って、なに勝手にナレーションしてんですか。ま、正しいですけど。」

「いいだろ、カルガー。べつに間違っただけだからさー。」
イケメンの男の子につっこんだのが、この男の子の召使い、カルガーである。美人でスタイルもよくて気の利く、召使いたちの憧れの的である。ちなみに、長い栗色の髪をポニーテールにし、水色の高級なりボンで結んでいる。

そんなカルガーの雇い主の男の子、名前を水龍と言う。先ほど言っていたとおり、イケメンなのだ、俺様キャラでメンタルが弱い。だが、負けず嫌いのわがままな子である。

「それよりも、もうすぐ入園式始まりますよ。」

「え？いそがねーと！」

水龍の通う学園は、妖魔法学園と言う。その入園式には、全ての生徒が出席しなければならない。その開始時刻が、8時ぴったりなのだ。最近中等部1年になった水龍も、例外ではない。

ばたばたとあわただしくリムジンに乗り込むこの水の国の国王、水龍を見て、カルガーは溜息ためいきをひとつついてから、リムジンを出発させた。

リムジンのタイヤが横になり、そこから空気が噴出され、キュイイイイイインと派手な音をたてて、国王を乗せたリムジンは、水の国を飛び立った。

リムジンが妖魔法学園に降り立つと、7時50分と、ギリギリだった。

「ちゃんと、体育館に行くんですよ。ざっとこの学園についておさ

らしいですか？」

「まあ、やつとこら。」

「この学園は、幼等部、小等部、中等部、高等部、大学部があつて、それぞれがべつ棟になっています。ここまでついてこられましたか？」

「う…まあ。…頭が痛くなつてきた。」

「まあ、続けましょう。さらに幼等部長室、小等部長室、中等部長室、高等部長室、大学部長室、学園長室があります。これらは、部長棟と言つ同じ棟にあります。さらに、主に体育などをする、体育棟、その他の放送室などがある、雑棟ざつとうなどがあります。これらは、校庭をコの字を反対にしたような形で囲んでいます。」

「そついや、コの字なら棒が1本足りないな。」

「最後まで話を聞いてくださいよ。そしてその足りない1本のところには、今言つた棟と校庭と同じ、もしくはそれよりも大きい、迷いの森があります。その中心部には、天国まで届くほどの巨木があり、その頂上あたりの太い枝に、ツリーハウスがあつて、そこには長老さん…あなたと同じ中等部1年のですけど、住んでいる。と言つつわさです。」

「つわさかよつ！」

「早くしないと遅れますよ。」

水龍が気がつくともう時間は7時58分になっている。

「うつわ！やつべえ！いそがねえと！」

リムジンから、仮面をつけた水龍が出てきた。その声は、仮面をしているにもかかわらず、よくとおっている。

こうして、妖魔法学園の入園式は始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8897z/>

ほのぼの妖魔ライフ

2011年12月27日23時51分発行